

地域住民向け講座「高齢者生活応援サポーター養成講座」の開催

高齢社会が進行する地域において、「高齢社会で起きてくる課題を身近な問題として捉え、その負の面だけに着目するのではなく、高齢者の持っている力や知恵をいかに地域の力に変えていくことができるか、またそのための支援をどのようにすればよいかを共に考え、学ぶ機会を持つ必要がある。」との問題意識のもとに、高齢者生活応援サポーター養成講座を開催した。参加者を高齢者生活支援サポーターとして認定し、ボランティア活動に定期的に参加いただいている。

社会福祉法人 **恵仁会** 〒893-0024 鹿児島県鹿屋市下祇川町1800番地
TEL : 0994-43-2546 / FAX : 0994-43-2937

◆法人の概要

法人設立年：昭和44年

経営施設、事業（数）：12施設

経営施設、事業（種別）：

特別養護老人ホーム…1施設、デイサービス…2事業、グループホーム…2事業、居宅介護支援事業所…2事業、ホームヘルパーステーション…1事業、小規模多機能居宅介護…1事業
受託事業：地域包括支援センター…1事業、高齢者等訪問給食サービス…1事業、高齢者等世話付住宅…1事業

◆法人の理念・経営方針

経営理念

地域における社会福祉事業の担い手として責任のある立場を自覚し、安定した経営基盤を構築するとともに、提供するサービスの質の向上及び経営の透明性に努める。

運営の基本方針

- I 私たちは、利用者の求めるサービスの提供にあたっては、個人の尊厳を旨とし、創意工夫された最高のサービスを、笑顔と真心を持ってお届けします。
- II 私たちは、利用者が求めるサービスを安全・安心・安楽に提供することによって得られる信頼を基に、すべては利用者の自立と生きがい、豊かな老後を支える活動であることを自覚します。

◆実施施設の概要

施設名：※法人全体

活動開始年：平成20年6月

活動の頻度・時間：月2回、1回あたり3時間

活動の対象者：福祉・医療のことに関心のある方や、地域で高齢者の生活を支援したい方等、子供（10歳以上）から大人まで受講できる。（但し、10歳から15歳までの参加については、保護者同伴）

活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人のある鹿児島県は、平成19年10月現在、総人口約1,730,000人、内65歳以上人口が約444,000人であり、高齢化率は25.7%で全国7位である。約4人に1人が65歳以上ということになり、独居高齢者、高齢者夫婦世帯が全国1位という特徴を持っている。今後、さらに高齢化は進んでいくことが予測され、それに伴い様々な問題が発生することが懸念されている。そこで当法人では、福祉に関心のある地域の方々を対象に、高齢者応援サポーターを養成することを目的に、今回発表の講座を開催することとした。この講座に実施にいたった背景には、「高齢社会で起きてくる課題を身近な問題として捉え、その負の面だけに着目するのではなく、高齢者の持っている力や知恵をいかに地域の力に変えていくことができるか、またそのための支援をどのようにすればよいかを共に考え、学ぶ機会を持つ必要がある。」との意識があった。

実施内容

平成20年6月14日、29日の2回のシリーズで講座を開催した。第1回目は主催者により、この養成講座の趣旨説明を行った後、地域包括支援センター職員による「介護保険制度と後期高齢者医療費制度について」、家族代表による「認知症の人を支える家族の立場から」、協力医療機関の医師による「鹿屋市における高齢社会の現状と課題～健康に楽しく生きていくために～」といったプログラムを実施した。続く第2回目は、協力医療機関の認知症サポート医による「認知症について～認知症になったらどうなるのか？その予防策は～」、法人職員による「認知症の人へのケアを考える」、法人介護職員による「実践報告」、当法人の経営する特養利用者による「利用者メッセージ」といったプログラムを実施した。

当初、30名程度で開催する予定であったが、申込みが殺到し、約50名の方が2回の講座をどちらも受講された。2回の講座を受講された方を、高齢者生活支援サポーターとして認

定し、「修了証書」を発行した。今後は、各種研修会の参加要請、地域活動へ参加を呼びかけていく予定である。

活動効果

今回の活動を通じて、地域には福祉に関心のある方、何か少しでも社会の役に立ちたいと考えている方が、我々の予想以上に潜在していることを知ることができた。これは、我々にとっても本当に喜ばしいことであり、積極的に地域へ医療、福祉情報を発信していく必要があることを再認識させてくれたと感じている。またボランティア活動に関しては、以前から「興味があってもどうしていいかわからない。」といった声が聞かれていたが、養成講座終了後、数日してからサポーターの方からボランティア活動参加への申し込みがあった。さっそく特養で活動していただいたが、この方々は今後も定期的にボランティア活動を行っていただけるということであった。特養に入所されている方々にとって、地域の方々とのコミュニケーションの機会持つということがいかに大切なことであるかを考えると、これだけでも今回の養成講座を開催して成功だったと言えるのではないだろうか。

今後の課題

サポーターの方々への継続的なフォローが課題である。

サポーターは、法人の経営する事業所でボランティアなどの活動を行うだけでなく、地域の核となるという目的も持っている。そのためには定期的に声かけを行い、サポーターになったという気持ちの薄れないようにする必要がある。また、2回にわたり講座を開催したが、それを知識として活用できる方は、そう多くはないであろう。その点を考慮し、法人が行う研修会の案内等を確実に伝え、フォローアップしていくことも重要だと考えている。

加えて、サポーターに認定されたという喜びを持つ方々に、させられ感を感じさせないような活動の場を提供することも必要であろう。サポーターのモチベーションを低下させないことが、次のサポーターの発掘や地域での高齢者支援につなが

ると考えている。

